

たいむ

Lead【ニュース】

昨年、石井教員が他大学へ異動することが決まり、「たいむ」を担当しないか?と声を掛けられたとき、私は育休から復帰後のまだ仕事と子育ての両立に苦勞している時期で、「とてもとても(できません...)」という思いと、私自身が産後に自宅近くの子育て支援に遊びに行ったときに感じた「あの違和感は何だったんだろう?」という気持ちがあり、そのあたりを知るためにもよい機会になるかもしれないという2つの思いがありました。

近隣の児童館では、曜日ごとに対象年齢が決まっていて、子どもが体調を崩してしまうとその曜日を逃してしまい、ほかの年齢のプログラムの日には参加できなかつたり、少し年上の子どものお母さんたちと話す機会がなかつたりで、痒いところに手が届かない感じがありました。また、図書館の読み聞かせの会では「明德の学生だったら、完璧ではないけど伝わるものがあって楽しいのになあ」と思うことがしばしばありました。

そのようなこともあり、ゼミ生と一緒に「うたとおはなしのひろば」を昼休みに開催していましたが、4月からは「たいむ」の担当として東さんとチームを組むことになり、「みんなにとって過ごしやすい場を一緒に作っていきたい」という思いでスタートしました。私には石井教員のようなバイタリティもありませんし、以前から「たいむ」にいる皆さんの方が詳しいこともあるので、色々教えて頂きながら「たいむ」に携われてよかったと思える1年を過ごすことができました。

そのように感じた3つの機会として、①運営委員さんとの出会い ②附属幼稚園2歳児クラスでお話する機会を頂いたこと ③ゼミ生8名との活動 が考えられます。運営委員さんとは様々な話をするなかで、子育てのこと・たいむへの思いなど共有し「たいむ」を一緒に作っていく楽しさを学びました。附属幼稚園の2歳児クラスのお母さん方には、最近の幼児教育の動向についてお話をさせて頂くだけでなく、子育てをする仲間として共感できることが多くありました。また学生たちは、ゼミの活動としてだけでなく、実習や就職が思うようにうまくいかないなど学生なりにセンシティブな時期にも、皆さんがおおらかに受け止めてくださり、子どもたちに励まされ、8名は無事に卒業していく予定です。学びの成果発表会(2月)では、ご協力いただいたアンケートを元に2名の学生が発表をして、全体発表では、ゼミ生たちが「たいむ」への熱い想いを語っていました。そのような、出会いや機会に恵まれたことに感謝するとともに、来年度は、行事運営に追われることがないように、会員主体の「たいむ」を模索していければと考えています。どうぞよろしく願いいたします!

第8回 たいむを育てる会 議事録

2020年2月5日(水) 11:00-12:00 出席者:小池さん、柳さん、深山さん、木内さん、池谷、東

- もちつきは、約80名の参加、子ども達がついて食べられるのがよい。豚汁がよい。
- 豆まきは、約60名の参加、幼稚園の翌日に実施。午前と午後で趣旨を変えた。来年は、手作りの鬼のお面に挑戦したい。
- 来年の行事について
「流しそうめん」は、夏休みの期間に短大生と小学生が参加できる日程で行う。
本物の竹を用意するために、たいむの会員に呼びかける。場合によっては、プラスチックも可ではないか。「小学生たいむ」の実施も複数回検討する。
- ひなまつりは、カルピスと3色ポップコーンをつくる。お手伝いのお母さん募集!
- お疲れさま会は、午前はお母さん、午後は子どもプログラム
午前)ふせん de トーク、スライドショー、ビンゴ大会(800円を各自用意)
午後)絵本「きんぎょがにげた」、金魚の宝探し(年齢ごとの時差スタート)、お菓子と交換(運営委員がお菓子の買い出しと袋詰め)
- 来年度の運営委員さんの募集 3月中旬に呼びかけて、4月中旬まで

楽しい企画を立てていましたが、3月のイベントは、やむを得なく中止となりました(;_;)

一年間に渡り、運営員を担ってくださった皆様には本当に感謝しています。ありがとうございました。

今後も、「たいむ」をより良いものにしていけるよう、お力添えのほどよろしくお願いいたします。

■ スタッフとして ■

ちょうど去年の今頃、たいむの担当の話が私の元に舞い込んできました。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、去年は玄関入ってすぐの短大の受付にいたので、皆さんが出入りする様子は毎日拝見していました(笑)

保育の現場で働いていた頃から、子育て支援センターの先生から様子を聞いていて興味を持っていたものの、「子育て支援センター＝子育て経験者」というイメージがあり、私で務まるのか、今まで積み重ねてきたたいむを引き継ぎ、どのように運営していけば良いのか等、正直不安でいっぱいでした。

そのような時、統括になる池谷先生から「ゆったりのんびり運営していきましょうよ。」という言葉をいただいて、「初めからスタッフが緊張の面持ちで構えていたら、来室する親子の方も不安だろうし、居づらだろうな」ということに気付き、程よい緊張感を持ちつつも、おらかな気持ちでたいむをスタートしました。

日々過ごしている中で、保育の現場とは違った保護者の方との距離感や、子育てに関する悩みや子どもに対しての思い、子どもとのかかわり方などに触れ、とても新鮮で、私自身も学ぶことが多くありました。そうしたときに思ったことは、スタッフとして何かを提供したり、相談があるときだけ話を聞くという一方的なかかわりではなく、かかわりを通して会話の中で、自然と意見を交わしたり、困っているときは保護者の方に助けていただいたり、支えになったりという関係が出来てきた実感したときに、たいむが『育ちあいのひろば』と謳っている意味が腑に落ちました。その時から、「子育て支援センター＝子育て経験者」というイメージが崩れていきました。

そして、前年度3月のたいむ通信で、石井先生の書いた文章にこのような内容がありました。

私がこのひろばに求めていたものは、「みんなが主体となる」ということでした。保育のように、「受け入れる者と託す者」のような関係ではなく、ショップのように「サービスを提供する者とされる者」の関係とは異なり、誰もが受け入れたり託したり、誰もが支援したりされたりできる場、その「場」を創ることこそが、私のこの7年間の仕事であったと思っています。

そして、この場は、そこにいる人たちによって、いろいろな形へと変わっていきます。必要であれば皆が集まってきて、必要がなくなれば消えてしまうほどはかないものであろうと思います。次にこの場にかかわる人たちには、ここは特定の誰かの場所ではなく、この活動は特定の誰かがやるものではないということは常に大事にしていきたい。かつて、パールマンは、「4つのP」を問題解決のアプローチの基本であると提唱しました（place 場 person 人 problem 問題 process 過程）。育ちあいのひろばという場所、そこに集う人（利用者、子ども、スタッフ、学生、地域、その他）、それぞれが抱える問題（スタッフも利用者も）、集う人が寄り添いだんだんと解決していく過程、これらが利用者主体で進んでいくことが望ましい姿なのです。完璧な人はいませんし、完璧な支援のあり方もありません（ノーバディーズパーフェクト）。私自身が完璧ではなく、常に学び成長して存在なのです。

人間は学ぶと自分自身の思考や行動が変化します。このひろばが7年間、常に変わり続けて、今の姿になったのは、ひろば自体が学び、成長を遂げたのであろうと思います。その場を少しでも育てられたのであれば、私のこの学校での存在意義があったのかもしれない。

今まで積み重ねてきたものを引き継ぐことにプレッシャーを感じていましたが、積み重ねてきたものを維持するのではなく、それをベースに変化し続けて良いのだということに気がきました。現状に満足するのではなく、皆さんと共に、たいむを育てていきたいというのが、私の願いであり、次年度の目標でもあります。

今年度は、たいむにかかわる全ての方々に支えられてきた一年だったと思います。

企画運営にご協力いただき、本当にありがとうございました。そして、今後どうぞよろしくお願いいたします!!

◇ 図書館 高森先生よりご挨拶 ◇

3月をもって、千葉明德短期大学を退職することとなりました。私は教員兼図書館担当ということで、直接たいむの方々と関わることは少なかったのですが、本の貸出やお話会などを通して保護者の方とお話したり、子どもたちに話しかけられたりすることもあり、楽しく過ごすことができました。

この図書館は絵本が充実していて、子どもだけでなく大人が読んでも読みごたえのあるものもたくさんあります。これからも、ぜひ親子で絵本を楽しむ時間を大切にしてください。

9年間ありがとうございました。



◇ たいむ豆まき ◇ 2月4日(火)

子どもたちにとって、勝負の日…節分がやってきました。前日が、節分ということもあり、家庭や幼稚園・保育園で豆まきをされた方も多かったと思います。たいむでは、午前(未就園児向き)と午後(幼児向き)の2回行い、附属幼稚園で逃げた鬼が学校にやってきました、子どもがいなか探しているというバックストーリーで豆まきを行いました。(実際、3日に事務室で作業をしていると自動ドアから2体の鬼がやってきました、本当に驚きました…)

その話を子どもたちにすると、幼稚園児は「もう一回やっつけない!」とやる気満々。話をしていると、太鼓の音が遠くのほうから響いてきて、大きくなるにつれ、隠れたり、お母さんにしがみついたり、豆をスタンバイしてかまえたりとしていましたが、太鼓の音が鳴らなくなると、皆もシーンとなっていました。鬼が現れると、今までの静けさが嘘のように、泣き声や戦う声が響き渡っていました。2体のうち、1体が女の鬼だということに気付いた子がいて、

「東さんが鬼をやっているんじゃない!?!」と思いきり豆を投げていましたが、目の前でカメラを構えてみんなを応援しているスタッフ東…。「私はここにいるよ~(汗)」と言うと、お母さんたちは大笑いし、本人は驚いていました(笑)。未就園児の子たちもいたので、泣いている子たちを守るために、幼稚園児たちは大健闘!その甲斐あって、今度こそ鬼は逃げていきました。

ただ恐怖心を与える行事にするのではなく、成功体験として子どもたちの心に残すとともに、邪気を払い、無病息災を願う大切な日本の伝統行事として、伝えていきたいですね。

※子どもたちはもう一体の鬼を、附属幼稚園のある男の先生だと思っていたようですが、本当のところは誰だったのでしょうか(笑)



◇ MaMa's Café ◇ 2月18日(火) 10:30~12:00

2月のテーマは、「防災について」でした。

昨年台風・大雨被害を受け、被災時の様子、困ったこと、災害時があると役に立つ物・準備しておく良い物等々を話しました。また、実際にご家庭で防災対策のための備蓄をされている方に話を聞き、具体的なイメージや、目から鱗が落ちるような情報もあしました!この内容については、台風シーズンの備えとして夏前くらいにもう一度できたらと思っています。

そしてたいむでは、防災についてのアンケートを実施しています。受付に用紙と回収ボックスを設置していますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



◇ ジャがいもの植え付け ◇ 2月27日(木)

春を感じさせる陽ざしの中、『みんなのはたけ』にジャがいもの植え付けを行いました。お砂場着に長靴で準備万全の子も!!今は可愛いお砂場着があるんですね♪

子どもたちは、砂遊びに夢中でしたが、お母さんたちが作業を始めると、そちらが気になるようで畑のほうに集まってきました。しかし、子どもたちは“畝(うね)”を“山”と思ったのか、砂遊びの延長で山を崩しにかかっていた(笑)

初めてのジャがいも作り。どうか成功しますように。そして、ジャがいもが収穫できる夏頃には、新型コロナウイルスも終息し、皆と一緒に食べられますように!!



Info【情報・お誘い】

◆【重要】新型コロナウイルスへの対応について（臨時閉室のお知らせ）◆

年明けからの新型コロナウイルスの世界的な流行により、先週末には国内の小中高が春休みまで休校することが決まりました。「たいむ」でも、感染予防のためのお願いをしてきました。しかし、感染の拡大防止、子どもの居場所、保護者支援という視点から考えると非常に悩みましたが、このような状況下で運営を継続することは難しいと考え、3月いっぱい閉室させていただきます。今後の開室については Facebook とホームページで告知させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。何かありましたら、Facebook でメッセージをお送りください。

◆たいむを育てる会（運営委員会）に参加していただける方を募集します!◆

◎育てる会（運営委員会）で検討する内容

- ・たいむの運営や内容について
- ・たいむの行事や企画について
- ・その他たいむに関するあらゆる事柄について

◎日時

毎月1回程度 10時～14時の間で1時間～1時間半程度、皆さんの都合をお聞きしながら予定を立てます

◎特典

- ① 年間パスポート(¥1800分)
- ② Café コーナー利用券(10杯分)

◎募集期間・応募方法

- ・定員5名程度（応募者超多数の場合、抽選となります）
- ・2020年3月9日(月)～4月17日(金)まで
- ・お問い合わせ・お申し込みは、お電話あるいは、メールでお申し込みください。